

5 月 号

「わあー。  
蝶々がいっぱい咲いてるよ。」

「ほんと！  
でっかい羽のモンシロチョウだ。」

思わずさげんだ、わたしたち。

寒い冬

意地悪風さんふくどきに  
背中を丸めてふるえてた  
小さな、小さな草でした。

お日さまと春風さんにつつかれて  
手足を伸ばした三色すみれ。

パレットに

あなたの色をのせようと  
みんながあなたを待ってたの。

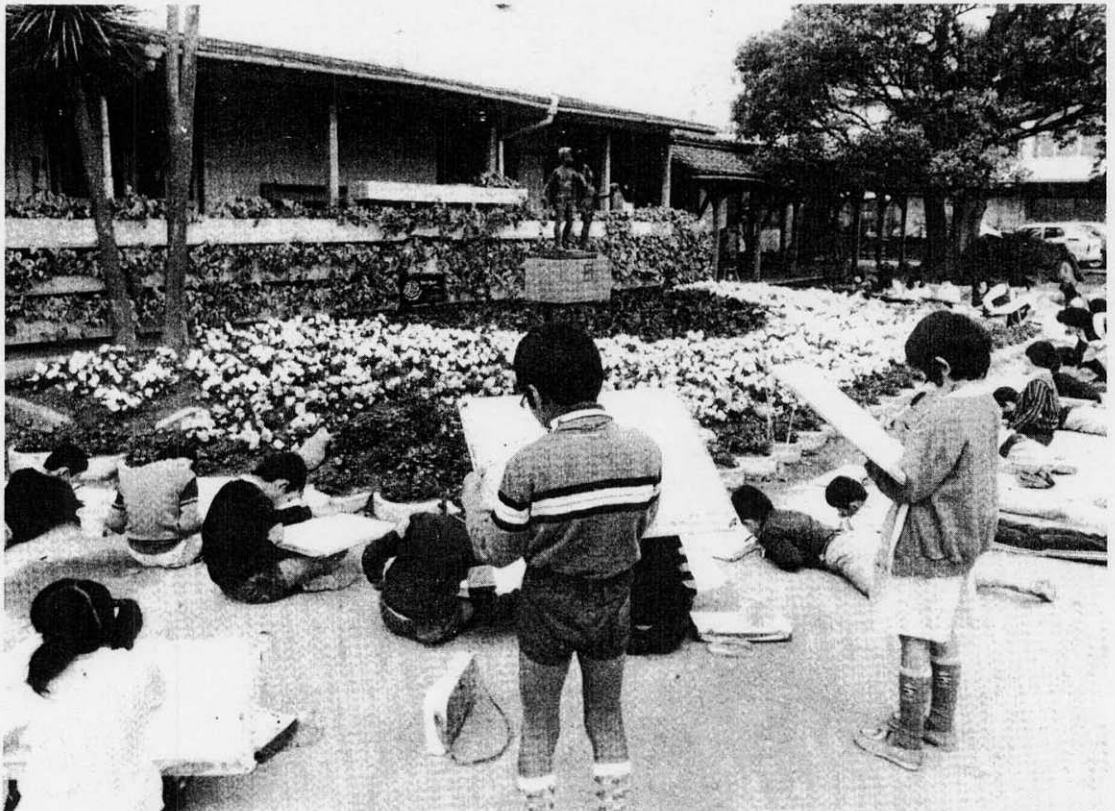
すみれ、すみれ、  
三色すみれ。

わたしの鉢にも

花だんにも  
蝶々がいっぱい咲きました。

花はわたしのお友だち。

昭和56年 5月 1日  
編集／発行  
岡崎市教育委員会



(花壇の前で一六ッ美北小)

## — 教育随想 —

## 障害を超えて

小谷野 錦 子



この春、学窓を巣立っていった多くの若人たちの明るいニュースの中で、私にとって、とりわけうれいしいのは、豊橋市に住むサリドマイド障害の娘さんが、高校から大学に進学し、四月八日から、そのために東京で一人で下宿生活を始めるというものである。この春休みに自動車の運転免許をとったばかりという中道空海さんの毎日新聞に載った運転姿は潑刺として目映い。

先天的な上腕部欠損のため、空海さんは手術を受けたり、一時は岡崎市内の養護施設に入っていたこともあったそうである。しかし、普通教育を受けさせたいという御両親の希望で、空海さんは自宅から地元の小中学校に通い、さらに、片道40分の自転車通学で高校を卒業し、今日の栄冠を手にしたのである。

子供の不自由な身体を不憫に思って、

労わることは、どの親でもするだろう。

しかし、それではいけないと、我が子に励げまして鍛え上げた空海さんのご両親にも心からの拍手を送りたい。

つい数日前、上京の折、荒井良氏の著された「先天異常」（社会思想社、56年3月30日発行）をみつけて買求めた。荒井氏も中迫さんと同様、上腕部欠損の令息をお持ちである。

氏は生物学、殊に発生学の御専門であるが、令息の誕生を契機として、さらに一層、先天異常のもつ問題を窮められたように思う。これまでに「胎児の環境としての母体」（岩波新書）他、数編を著されている。数年前に、私も上記の書を読んで、自分自身が子供を産むべき母体としての視点に立つことを教えていただいた。

「先天異常」では、先天異常がどうし

て生じるかを、初心者でも理解できるように、まず懇切な発生学の解説がなされている。そして発生学の各々の段階がどのような異常につながるかを、具体的に、先天性心疾患、四肢の異常、染色体異常他、豊富な例を用いて説明されている。

この中で、若い母親となる人々に是非知っていただき度いことは、胎児が先天異常を持って生れるかどうか、大部分受精後四、五週までに決まってしまうことである。八週目には、胎児は体長僅か3センチ位であるが、ほとんど完成したヒトの姿になっているという。受精は最後の生理予定日の約二週間前であるから、母が自分の妊娠を気付かぬうちに、胎児は重大な時期を迎えていることになる。この時期にわずかに25ミリグラム（たった耳かき一杯の量）のサリドマイド（市販品名・インソミン）を服用して障害を受けた例もあるそうで、いかにこの時期の胎児が影響を受け易いかわかる。

ヒトの妊婦に重大な障害を起こしたサリドマイドは、ウサギ、マウスやラットでは奇形を起しにくい。氏は、動物実験で薬物が安全であったからといって、それが、人間についての安全性を保証するものでないと結論しておられる。そして胎児が健康であるためには、まず母体が健康でなければいけないと繰り返し強調しておられる。

この書は、若い母となる人たちに是非ご一読を勧めたい書である。

（受知教育大・岡崎女子短大講師）



## 蠅の大群に面喰らう

小林 績

メルボルンから、キャンベラ飛行場に着いたのは、午前九時三十分頃だった。早速観光バスで郊外の羊牧場に向かった。

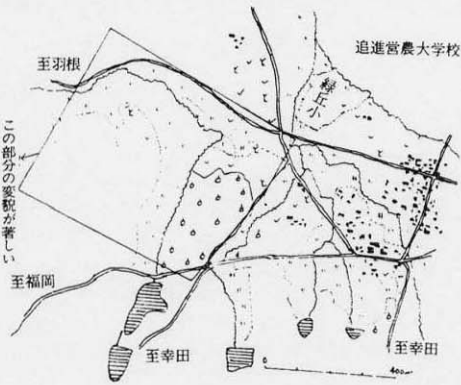
自然林の多い平原を走ること四十分、バスは牧場主の家の前に停まる。とたんに牧羊犬がとび込んできて、一人一人に愛嬌をふりまき、サービスにつとめる。

とつさのことに嬉しいやら、面喰らうやら。羊の群は、もう窓ごしに眺められ、はやる心をおさえて外へ出た。二・三歩あるくや否や、あつと驚いた。蠅の大群が我々一行をとらえ、眼前や背中に真黒になって、たかってくる。両手で追っても退散するどころか、歩けば歩くほどその数は増すばかりだ。

「こりやあたまらん、早く切り上げ、バスの扉を締めようよ。」こうした悲鳴があちこちから出る。

「蠅はキャンベラの名物、人畜無害、馴れば、そんなに苦になりませんよ。」とは案内人の説明。

戦前、戦後はともかく、蠅の少ない生



—ふるさとの山河—

# 馬頭野の今昔

国土地理院発行の五万分の一（または二万五千分の一）の地形図を見ると、緑丘小学校の所在地近くに「馬頭」の地名が記載され、六十〜七十戸の集落が形成されていることがわかる。幕藩体制の時代、この地は馬頭野と称し、旗本柴田氏の所領であったが、馬頭の地名の由来については次のように伝承されている。

その昔、南西の京ヶ峰で、毎夜、赤々と灯が燃えた。村人が驚いて近付いてみると、一人の翁が岩に腰かけ、身中より光を發し、われは馬頭親世の化身であるといつて、村人に法を説いた。村人は感涙にたえず、一字を設けて馬頭親音を安置したことにより、馬頭と呼ばれるようになったという。

一説には、この地はもと草茫々の原野であったが、近くの牧童がここで馬頭親音の木像を發見してこの地に祀った。以来、馬頭と称するようになったとも伝え

られている（岡崎市史より）。

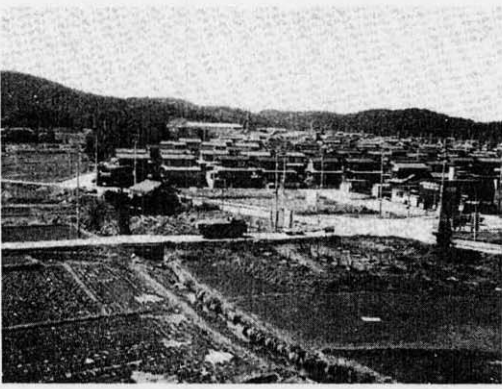
いずれにしても、人々は嘗々として浅い枝状谷に水田を開き、溜池を築いて台地を少しずつ開拓してきたのである。あたたかもその苦難を裏付けるかのように、馬頭地内の随所に溜池がみられる。

この地に小学校ができるまでは、純農村地域であつて、四季折々の野菜や果物が生産されていた。とくに、小学校南西の丘陵地は数年前は一面の柿畑であり、次郎柿、筆柿の生産の場であつた。ところが、最近の人口のドーナツ化現象に伴い、この地にも開発の手が加えられ、急速に宅地化の波が押し寄せてきた。そのため、柿畑や三つ四つあつた山は削られ谷を埋めて拡大な住宅地が造成された。かつて曲がりくねつて集落の間をぬつていた県道の桑谷・柱線は、歩車道の区別ある一直線の大通りとなった。その道路をはさんで南と北に多くの住宅が建設さ

れ、人口も急増した。その住宅の様子に視点をみると、次の様な特徴に気づく。①一戸建てである。②車庫用地が確保されている。③道路北側は、そのつくり、型、色彩等それぞれ個性的であるのに対して、④南側の住宅は画一的な一戸建てが群をなすものと、個性的なものが混在している。ここに、その開発の様子の特徴の一端が現れている。

県道両側に沿つて、一兩年前から飲食店をはじめ、電気器具、ふとん店など、家庭用品販売店、美容店等も姿をみせて様子が一変した。

今後は、この道路と直交するもう一つの通りの完成が待たれる。完成のあかつきには、さらに多くの住宅や商店が進出し、馬頭の面影は一変することとなる（緑丘小 近藤正義）



活に馴れた我々にとつては、懐しいどころか、とんだハブニングであつた。（東海中校長）

## 私もビルマ人

宮崎昌子

どこまでも澄みわたる青空、熱帯植物の緑を背にひとときわ映える白いバゴダ（寺院）、そして道を行きかう水牛たち。この美しい自然の中を、人々はゆらりゆらりと歩いてきた。男も女もロンジー（巻きスカート）姿である。特に女性のエンジー（上着）の胸のふくらみやロンジーの腰の曲線美に見とれてしまう。

「よし、私もビルマ人になろう。」 さつそくマーケットへ行き、二ヤード幅の布を六十チャット（約千八百円）で買った。黒地に赤い幾何学模様織り込んでいる。二チャット（約六十円）で筒状に縫ってもらつた。翌日、ビルマのガイドさんが、「あなたのため、一番大きい人のエンジーを持って来た」と、オレンジ色の上着をさし出した。思わぬ贈り物に喜んで手を通したが、一番上のボタンがどうしてもはまらない。それでも、ロンジーを落ちないように腰に巻きつけると太めのビルマ人のできあがり。素足になつてバゴダの境内を歩き回つた。

ビルマは物質的には貧しいが人情の暖かな国であつた。私はビルマ人の人なつっこさと心の大らかさが好きである。（井田小）

# 翔け 新任



4

## 3/26~28 新任教師の集い

- 講座 — 私の新任の頃
- 体験発表 — 先輩教師
- 講座 — 好かれる先生の条件  
新任教師の心得 ⑦
- 実技研修 — ひらがな・数字 ⑩
- 講座 — 学び方と学ばせ方
- 懇談 — 教師について
- 実技研修 — 集団行動 ⑨
- 講座 — 教員の読書
- 実技研修 — 朗読・歌声 ⑥
- 講座 — 理想の教師像
- 講話 — 教師の資質について
- 野外活動 — オリエンテーリング ⑧
- 実技研修 — 孔版技術 ③⑤

- 講話 — 新任教師に期待する
- 実技研修 — 板書 ②
- 映画 — 岡崎の教育
- 講話 — 教師と研修

## 4/1 辞令交付

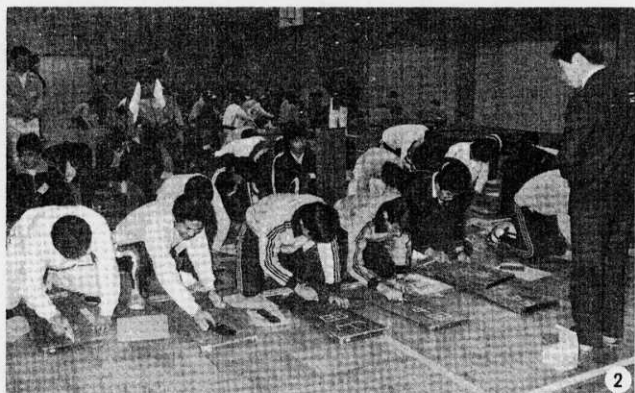
- 西三河教育事務所
- 岡崎市教育委員会 ① ④

## 4/3~4 新任式

- 新任式・入学式 ⑪
- 始業式（担任発表）⑫



1

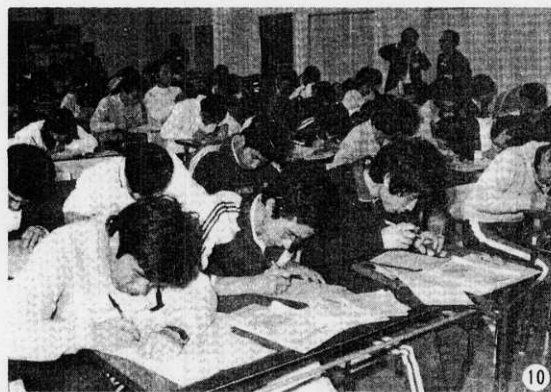
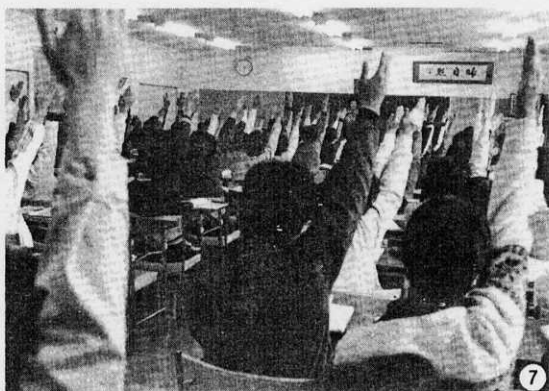
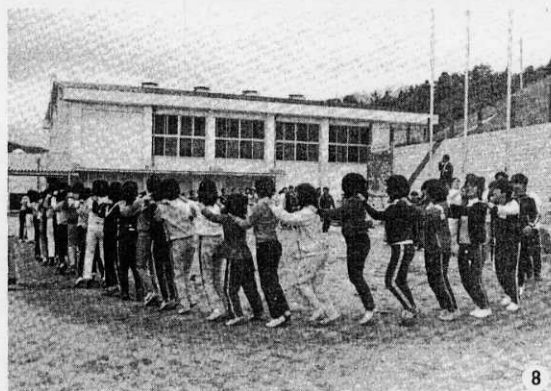


2



3





クロッキー  
指導を通して

六北小 松田サエ子

サラサラサラという鉛筆の音以外何も聞こえない。いつもは落ち着きの無い子も息をひそめて一心にモデルを見つめる。確実な手の動き、キラキラした目、夢中になっている目、美しいなと思う。

こんな子供達の傍らに立つて思い返すと長かったような、短かったようなこの一年の事が思い出される。

子供達に良い絵を描かせるために我校でクロッキー指導を取り入れてから二年間が過ぎた。教師も子供達も一本の線に、形のとらえ方に必死に取り組んだ毎日だったように思う。

この五年生の学級を持ってから週二〜三回のクロッキーの時間を持った。いろいろなポーズの人物、手や足など体の一部、自転車やグロုပ်などの静物をモデルにしたこともあったし、生きているザリガニを教室中にはい回らせたこともあった。これらの物を描かせ、練習を重ねる中で子供達は確実に物を見る目を育てて行ったように思う。

## 教育日々



初めは自信無さそうに薄い線で描いていた子や、なかなか描き出せずにモジモジしていた子もだんだん減っていった。私にとつて、こういう技術的な進歩は嬉しいことであつたが、最も嬉しく感じたのは、

「先生、今度は何描くの？」  
「ぼくモデルやろうか？」  
という子供の言葉や、  
「今日はクロッキーやるよ」



という私の言葉で歓声を上げる子供達を見た時であつた。そんな時、私は子供に描かせる物を用意する苦勞を忘れた。

また、モデルを前にして、号令とともに顔付きまで変わつて画面におおい被さる子供達の姿。その手の描き出す物の確かさを見て、今さらながら子供の力の無限さを知らされた思いがしたこともあつた。

この一年、専門的な知識もなく、どれだけ子供の手助けになつたか判らないような教師ではあつたが、このクロッキー指導を通して、子供と共に一つの物を追い求めてきた。思えば苦しくとも教師として幸福な一年であつたのかもしれない。

## 「K君」が発言した

細川小 竹内春美

「K君がまた掃除をさぼつてる」

毎日、困り果てた班長が報告に来る。宿題は忘れ、言うことは聞かず、授業中ポカンとしている彼は、いつの間にか「ぐうたらK君」と呼ばれるようになった。

話し合いを中心に学習を進め

る授業を目指しながら、K君のように、一時間をポカンと過ごす子を見ると、全員参加の「磨き合い」には程遠く、途方に暮れてしまう。なんとかしなくてはと、K君を含めて六人の個別指導をした。その中で彼は優等生である。簡単な計算とあつて、できる、できる。ちよつぱり気をよくした彼に、「よくできるね。本当は頭いいんだ」と大いにほめてやつた。

自信をつけ出した彼を授業の中で生かしてやりたい。めんどろくさがり屋のK君の字はおそろしくそそっかしい。そこで、新出漢字の筆順指導の際には、必ず黒板に書かせようと考えた。はじめは、「書くの」としづつていたが、慣れると「オレが書いてやる」と自分から前に出て書く。「K君、もつとうまく書けよ」「よっしゃ」(笑)……。しかられても平気な子は、少しぐらい冷やかされても大丈夫である。

ある日、算数の時間、予想外のでき事があつた。

北村 : 10cmになりました。

ほかにありませんか。

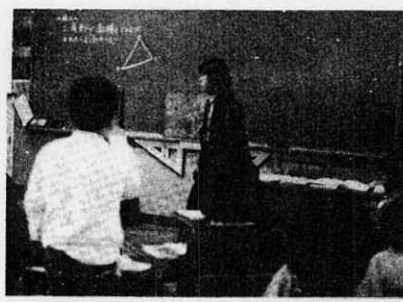
C いいと思う。

K あるぞ、おれ。

10 × 10 = 100  
加藤へえい。  
木原 最後まで聞け。  
K ……………。

女親分と言われる北村さんに対して、K君が発言したのである。冷やかす子に、木原君が厳しく制したのもうれしかった。正しいかまらがいかがは問題ではない。K君のように率直に言える子が貴重な存在なのである。できる子が考えを確かにするためにも、できない子もかわる話し合いを創るためにも。

あの「ぐうたらK君」が、今や最前列の席にすわり、率直な意見を言ってくれる班長さんで言う子はいない。





## 岡崎小 健康教育全国発表会

### 本年度の研究発表校十一校

昨年十一月に、健康優良学校（大規模校）特別優秀校の受賞に輝いた岡崎小学校では、その受賞を記念して、来る六月二日に全国発表会を開催する。

「自分の健康は自分の手で」―地域ぐるみで健康教育を―を主題とした同発表会では、集団登校、おはよう運動をはじめ、日ごろ同校が推進している情操教育の一端が公開され、午後からはその成果についての発表も行われる。

健康教育は即保健指導に思われ勝ちであるが、同校では心の健康を重視、ゆとり時間や特活時間を活用、リズムで心を合わせるといった独特の教育を進めており、その成果が期待される。

- 〔寄贈刊行物・資料等〕
- ◇教育要覧岡崎の教育 B5判
- 岡崎市教育委員会編
- ◇視聴覚教材・機材目録 B5判
- 岡崎市視聴覚ライブラリー
- ◇岡崎の教育 第21集 B5判
- 現職教育委員会・小中学校校長会・教職員組合編

- 講師の真仁田昭氏（筑波大教授・全日本健康優良学校中央審査員）の記念講演がある。
- なお、岡崎小の発表会を皮切りに、本年度の研究発表予定校は次のとおりである。
- ▽6/12・常磐小||基礎学力の育成（国語・算数）
- ▽6/23・生平小||語いを豊かにする指導
- ▽9/18・岩津小||ゆとりと充実をめざした教育活動
- ▽9/25・六名小||確かな読みの力をつける授業過程
- ▽10/13・竜美丘小||確かな観察と豊かな表現
- ▽10/27・井田小||太陽と土に親しみ自ら動き、つくりこむ子の育成

- ▽10/30・甲山中||技家栽培（東海北陸大会）
- ▽11/6・常磐南小||できる喜びを追求する教育活動
- ▽11/10・矢作北小||言語環境をととのえる―美しく豊かな話ことばを求めて―
- ▽11/27・常磐中||ゆとりの時間の活用と実践

- 昭和五十六年度学校訪問
- ▽県教委訪問
- ・義務教育課||広幡小・六北小
- ・保健体育課||羽根小
- ・教職員課||奥殿小・香山中
- ▽市教育委員訪問
- 五月二十八日||恵田小・岩津中
- 六月二十五日||竜谷小・緑丘小
- 九月二十四日||秦梨小・河合中
- 十月二十九日||愛宕小・葵中
- 一月二十八日||大門小・梅園小
- 喜びの受賞
- ▽山中小||第二十八回文部大臣賞全国児童作品コンクール作文の部||学校奨励賞/同作文の部一等賞、五年加藤久仁夫
- ▽城北中||全国発明協会会長賞
- 三年近藤善紀/未来の科学の夢描画展、全国発明協会会長賞
- 三年近藤善紀
- ▽矢作中||第十九回科学工作コンクール特選
- 一年近藤雅一、梅本正樹
- ▽梅園小||優良少年消防クラブ指導者表彰
- 荻野富義校長

## 56年度 ●児童・生徒数・教職員数の実態

56.5.1 学校基本調査より

区分	学校数	学級数 (特殊)	児童・生徒数			校長・教員数 (非常勤講師を含む)			養護教員		事務職員		栄養職員
			男	女	計	男	女	計	県	市	県	市	県
小学校	38	801 (30)	14,904	14,253	29,157	510	501	1,011	38	2	40	23	7
中学校	15	294 (16)	5,963	5,709	11,672	357	143	500	15	0	21	6	0
合計	53	1,095 (46)	20,867	19,962	40,829	867	644	1,511	53	2	61	29	7
55年度計	52	1,005 (47)	19,103	19,145	39,212	839	626	1,465	52	2	59	30	7

## ●学年別児童・生徒数

学年	小学校				中学校						
	男	女	計	学年	男	女	計	学年	男	女	計
1年	2,582	2,455	5,037	4年	2,541	2,420	4,961	1年	2,221	2,058	4,279
2年	2,610	2,521	5,131	5年	2,400	2,247	4,647	2年	2,099	1,989	4,088
3年	2,574	2,551	5,125	6年	2,197	2,059	4,256	3年	1,643	1,662	3,305

## ●学級・学校の規模

	小学校	中学校
1校当たり児童・生徒数	762人	778人
1校当たり学級数	22学級	21学級
1学級当たり児童・生徒数	36人	40人



# 夜泣き地蔵尊

岡崎―清岳線の鑿野の信号を右折して六百米、学校橋を渡り百米程で生平公民館につく。公民館の左手に間口四・五米、奥行き六米余の地蔵堂があり、美しい「夜泣き地蔵尊」が道に面して立っている。

一つの頃か男川の出水の折、上流から流されてきた地蔵尊像が生平小付近の川岸で地元の人に見出され、近くの不退寺の一角に祀られたという。姿、形の美しさとご利益のあらたかさから信仰する人も多かったが、寺の場所がらから参詣の人々に不便を感じさせたという。

明治二十二年、近くの生平八幡宮境内にあった生平小学校が当地に移転し、校舎、試験場、教員住宅等が建てられたが、三十三年には同上埜洲地内に再度移転されたため、校舎と教員住宅は取り壊された。しかし試験場の建物は残され、「夜泣き地蔵」が不退寺から移祀された。

昭和二十年代までは、毎年十月二十四日に地蔵尊祭が盛大に行われたといい、現在でも地蔵尊のご利益を願って、西三河各地からの参詣者も多い。



点

所在地一岡崎市生平町

●カット

美川中 山本秀樹

## この本を

- 新心理学入門 宮城 音弥 ¥ 380  
岩波書店
- 日本人と話しことば NHKことば 調査グループ編 ¥ 1,300  
日本放送出版協会
- わたしが出会った子どもたち 新潮社 灰谷健次郎 ¥ 930
- 内助の功をあきらめて 廣中和歌子 ¥ 800  
講談社
- 私家版日本語文法 井上ひさし ¥ 920  
新潮社
- 第三の波 アルビン・トフラー 鈴木健次他訳 ¥ 2,500  
日本放送出版協会
- 日本人とは何か 江上波夫他3名 ¥ 1,200  
民族の起源を求めて 小学館
- 鎌倉・逗子 岩谷 大四 ¥ 1,600  
講談社
- 高村光太郎 駒活 喜美 ¥ 390  
講談社現代新書
- 毒草の雑学 一戸 良行 ¥ 980  
研文社

女の先生って、美しくあってほしい。汗ではげ落ちるような化粧ではなく、内から輝く美しさだ。お茶くみの楽しさを味わえる女の先生、ぼくはそれだけで美しいなあと感じる。こんな女の先生と出会った教室の子どもたちは、幸せだなあとも思う。ぼくって、あほらしくらい古いのだろうか。

菖蒲湯の香の染みし子の厨ごと

汀女

## シオシア

端午の日、菖蒲の根と葉を浮かべた風呂に入る。菖蒲は薬草で、邪気をはらい疫病を除き、心身に健やかになると伝えられている。また、蓬を添えて軒端にさす軒菖蒲も行われる。今日、これらがどの位、家庭で行われているだろうか。

青葉、若葉が光る季節。長い冬を耐え抜いて、一挙に萌え上がる自然の美しさと力強さを改めて痛感する。今年も新任教師を各職場に迎えた。若い後輩たちに自然の理を教え、鍛え抜いて、彼等が萌え上がる季節を迎えることができるよう導くのは、先輩教師の責務ではなからうか。

すがすがしい五月晴の下、花の季節はいつか若葉に移りつつあるが、タンポポの黄色に咲きみだれ、蜜蜂の微かな羽音にもゆれ動く自然のなか。「踏んだらタンポポがかわいそう」という子どもの声。「花は野にあるように」の利休の心が、今も子どもの子に生き続けていることに安らぎをおぼえた。